



2023.2.15

Euroluce | エウロルーチェ 2023 新しいパラダイム 見本市の進化を予感

合理主義的なレイアウトを捨て、ミラノサローネとデザインスタジオ、Lombardini22 のビジョンにより、エウロルーチェのフットプリントが進化し、スマートで、とても効率よく、より持続性も高く、更にはサステイナブルに進化することで出展企業および来場者に新たな認知度、機会、価値を提供します。

第 31 回エウロルーチェは、2023 年 4 月 18 日から 23 日までロー・フィエラミラノの 9-11、13-15 ホールで開催。見本市の形式と、来場者の体験の進化におけるマイルストーンになることを約束します。サローネは、ミラノの建築・エンジニアリングスタジオである Lombardini22 /ロンバルディーニ 22 に、より魅力的で現代的なビジネスプラットフォームの構築を視野に入れた展示レイアウトの再考を依頼しました。

4 つのホール間の接続を改善し、来場者の導線をシンプルにし、より流動的にする一方で、出展社の視認性を高め、それぞれのホールに十分なスペースを確保することが建築家たちに求められました。

ロンバルディーニ 22 は、万華鏡のような見本市の状況を分析し、企業や来場者のニーズを慎重に再検討して、すべての人の期待に応え、感動を生み共感できる空間を実現するためのプロジェクトを立ち上げました。

イタリアの都市中心部の空間性からインスピレーションを得たという 2023 年のエウロルーチェは、不規則で流動的、かつ自由なリング状のレイアウトにより、新しい光の街となる予定です。スタンド中心のレイアウトから、人、そして見本市を訪れた人の体験に基づいたレイアウトに変わります。都市部の豊かな街並みは、すべての展示ショーケースの視認性から補完的なサービスの提供まで、さまざまな角度からプロジェクトのベースラインを提供しています。

この新しい展示計画を中心に、ベッペ・フィネシが科学的プロジェクトと芸術的ディレクションを担当し、構成的で多面的な展示活動、それに対応するインターフェース、交流、文化、芸術のためのパブリックエリアやスペース(それぞれ異なる建築家によってアドホックにデザインされています)の提供を助長し、変化、変化、質の高いランドスケープを生み出すために組み合わせた独自の文化コンテンツコンセプトが開発されました。

中でも、フォルマファンタズマが設計した大型アリーナ「Aurore」(ホール 13)は、本物の街の広場のように立ち止まることができ、形、色、素材、光、音を組み合わせたデザインソリューションにより、共感覚を体験できる場所となります。ここでは、講演、会議、講義が開催され



ます。ビジネスと文化が融合し、**驚きとインスピレーション**、そして**対話が生まれる場**となるでしょう。

もうひとつの重要な取り組みは、**ホールの知覚的な次元**を深く掘り下げ、その潜在的な利用価値を評価する**空間構成の研究**です。空間が**来場者の導線**にどのような影響を与えるかを分析することで、**人々の自然な動きと調和し、効率的で直感的な導線**が描かれ、**曲がり角も少なく、オリエンテーションしやすいレイアウト**が実現されました。

そして最後に、ロンバルディーニ 22 は自問自答します：**「エウロルーチェをどう照らすか？」**

答えは実に単純明解：**「すべて消すこと！」**

新しいレイアウトは、**暗い箱の中に、詩や感動**を伝える光が、出展企業のスタンドから差し込むようにデザインされています。

ロンバルディーニ 22 のジェネラルマネージャーである**ジュリー・フランツォージ**は、「ロンバルディーニ 22 は、エウロルーチェのための全体的なプロジェクトで確認されたように、本物のスタートアップ精神を持ち続けています。学際的なスキルやデザインの試みは、出展企業や見本市を訪れる人々にとって、アクセスしやすく、認識しやすいイベントにすることに貢献しています」と述べています。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it